

平成13年度当初予算 基本事務事業目的評価表

[基本事務事業名] 宮川流域ルネッサンス事業の推進

[評価年月日] 平成12年11月9日

[主担当部課名] 地域振興部資源課宮川流域総合調整室

[記入課名・課長名・電話] 資源課宮川流域総合調整室長 木崎 喜久郎

1 総合計画の政策体系上の位置づけ

政策： 地域づくりの推進 (5 — 5)

施策： 流域圏づくりの推進 (6 2)

総合計画の目標項目： 建設省水質調査全国1級河川中第1位

波及効果・副次的効果を及ぼすと考えられる施策： 多様な自然環境の保全・創出

2 基本事務事業を巡る環境変化(過去 現状 将来)

近年の環境問題に対する関心の高まり、また本事業の実施に伴い流域14市町村・住民には宮川などの河川や健全な水環境・森林整備などに対する関心が高まってきている。

特に、地域住民グループのなかには積極的にこの問題に取り組み始めたところも出てきている。

しかしながら、まだまだ多くの地域住民には本事業の内容が浸透しているとは言えず、或いは理解されながらも、行動に移すまでには至っていない。

今後は、環境ホルモン、資源リサイクルなどの環境問題に対する関心がますます大きく、また重要になってくることが予想され、環境保全型農業の推進や廃棄物の減少、節水・節電など価値観の転換に伴うライフスタイルの転換、経済至上主義から自然環境、歴史文化の価値を認める社会への意識の改革が進むであろう。

3 基本事務事業の目的と成果

3-(1) 対象と意図(何をどういう状態にしたのか)

人間が多様な自然と共生できる環境づくりのため、宮川を日本一水質の良い一級河川とする。

3-(2) 成果指標名・成果指標式(総合計画の目標項目には*を付す)

3	1
*	—
直近3ヶ年の水質全国順位の和	3ヶ年の水質全国順位の平均

変更した場合の成果指標名・成果指標式

3-(3) 設定した成果指標に関する説明(指標動向に影響する要因 指標の有用性 設定の理由など)

河川は多様な生態系をはぐくむ貴重な場所であり、水循環に大切な役割を果たしているため、河川の水質を指標とした。また、単年度の順位では変動が激しいため、3年間の平均で傾向をつかむこととした。

目標を達成するためには、単に行政の施策だけでは限界があり、地域住民の生活排水の処理など一般生活のなかでの協力が不可欠である。この目標をスローガンとして掲げることにより、流域での住民運動としていく。

3-(4) 結果(施策における2010年度の目標)

建設省水質調査全国1級河川中第1位

4 基本事務事業の評価

4-(1) 前年度(H11年度)における基本事務事業の結果評価

前年度に行った内容と成果

[宮川流域総合調整室長]

- ・流域14市町村との連携強化、住民グループとの連携強化。
- ・シンポジウムの開催、ホームページの更新、情報紙の発行により地域住民への周知を図った。

[資源課長]

- ・ルネッサンス委員会水部会において、モニタリング流量を試験放流することにより、回復目標値の検討を行い、回復方策の方向性を決定した。

[水産技術センター所長]

- ・宮川水系における今回の調査では、魚類11科38種、水生昆虫34科94種、藻類7綱149種の生息が確認された。そのほか爬虫類、両生類の生息を数種確認した。また希少魚類は宮川に生息の可能性のある15種のうち10種の生息が確認された。
- ・宮川水系では水生生物の生息環境が概ね良好に保持されていることが示唆された。
- ・河川生態系保護、環境保護に関する啓発教育に供するため、河川の生物と水生生物の視点から見た生息環境及び河川構造物について説明した教育用パンフレット(小学校高学年～一般向け)、下敷き(小学校低学年～一般向け)を、各々1000部作成した。

[大気水質課長]

- ・宮川の支流の濁川を対象に、環境基準の類型あてはめ(類型AA)の告示(平成12年3月31日)を行った。
- ・宮川支流の大内山川を対象に環境基準類型あてはめを行うための環境調査を実施した。

[森林保全課長]

- ・宮川流域内の森林について、それらの機能を効率的に維持・増進するための短期(3カ年)の緊急森林整備実施計画を策定した。

[河川課長]

- ・土砂管理を行っていく上で必要となる管理項目、管理方法についての検討を行った。
- ・ダム湖における冷濁水問題については、選択取水設備の設置に向け概略設計を行った。

[松阪地方農民局企画調整部長][南勢志摩農民局企画調整部長]

- ・(「行動21!の提案」)を具体化するため、地域住民の参画による「行動21!」実行準備室を立ち上げ役割等の検討を行った。

前年度に残った課題

[宮川流域総合調整室長]

- ・地域住民との協働を手法とする事業でありながら、住民に本事業の意図、内容が知られておらず、十分な協働が図れていない。

[資源課長]

- ・流量回復方策の決定と関係他事業との調整を図ることが必要である。

[水産技術センター所長]

- ・同様の調査を一定のインターバルをおいて長期にわたって反復実施し、年月の経過に伴う生物相の変遷や河川環境の長期変化を解析する必要がある。
- ・今回の調査では、堰堤、魚道、ダム湖等に関しては、簡単な調査のみの実施に留まっており、今後の精査が望まれる。

[大気水質課長]

- ・宮川には多くの支流があるが定期的な水質調査が行われているのは一部であり、宮川本川の水質保全のためには主要な支流の定期的な水質調査を行い、負荷の低減を図る必要がある。

[森林保全課長]

- ・森林GIS(地理情報システム)を活用し、森林の機能に基づき地域特性に応じた森林

のゾーニングをおこない、環境に配慮した森林保全・管理対策を推進する「宮川流域総合森林整備計画」を策定する必要がある。

[河川課長]

- ・洪水調整方式、砂利問題については継続して検討する必要がある。

[松阪地方県民局企画調整部長][南勢志摩県民局企画調整部長]

- ・協働による地域作りの具現化
「行動21！」実行準備室の役割、具体的な取り組み内容を明確化すること。

4-(2) 本年度(H12年度)における基本事務事業の見込み評価

本年度行っている内容と本年度終了時に見込まれる成果

[宮川流域総合調整室長]

- ・県、流域14市町村からなる宮川流域ルネッサンス協議会の設立。
 - ・各戸配布の情報紙による広報活動。
 - ・流域体験ツアー、ルネッサンス講座、地域懇談会の開催による普及啓発活動
- 以上による流域住民に対し、本事業の趣旨が徹底される予定。

[資源課長]

- ・流量回復の実現に向け回復方策への取り組みを行う。

[大気水質課長]

- ・昨年度の調査に基づいて支流の大内山川の類型あてはめを行う。また、藤川を対象に環境基準類型あてはめを行うための環境調査を実施しており、濁川、大内山川、藤川等の汚濁の発生状況を把握できる。

[森林保全課長]

- ・森林ゾーニングを実施し、長期的展望にたった、「宮川流域総合森林整備計画」を策定し、宮川の清流回復を図るための森林保全・管理対策を総合的に推進する。

[河川課長]

- ・洪水調節方式を検討するための基本条件となる、無害流量についての検討及び土砂管理を行っていく上で必要となるモニタリングガイドライン案を検討し、モニタリングを開始する。

[松阪地方県民局企画調整部長][南勢志摩県民局企画調整部長]

- ・本年度から、南勢志摩県民局内に宮川流域ルネッサンス室を置き、住民、市町村と協働して重点的に普及啓発をおこなった。

本年度残ると思われる課題

[宮川流域総合調整室長]

- ・市町村との連携が必ずしも十分ではない。
- ・本事業は流域住民に認知されたと考えられるが、行動に移すまでには至っていない。
- ・関連事業である奥伊勢フィールドミュージアム計画については、奥伊勢地区でも十分に浸透しておらず、進捗状況も十分ではない。庁内調整会議で調整のうえ、住民が参画しやすい方向でバージョンアップが必要と思われる。
- ・基金の設立は、当分の間、見送られる模様。

[大気水質課長]

- ・宮川の支流のうち延長10km以上のもので類型あてはめに向けての調査が未実施のものが1河川（横輪川）となる。

[森林保全課長]

- ・三重県の森林ゾーニングに基づき、森林を継続的に管理する仕組みづくりを推進し、多様な森林づくりと山村への定住推進を図る必要がある。

〔河川課長〕

- ・洪水調節方式の確立。
- ・土砂管理方針の策定にあたっては、モニタリングの継続実施と、データの蓄積に基づく検討が必要である。

〔松阪地方県民局企画調整部長〕〔南勢志摩県民局企画調整部長〕

- ・宮川流域ルネッサンス協議会が立ち上げられたが、行政主導であり、住民、企業の参画がない。
- ・市町村の意識の差が激しく、意思統一が難しい。

5 基本事務事業の改革方向

〔宮川流域総合調整室長〕

- ・本事業は地域住民、市町村の理解、協働なくしては成就できないものであり、さらに徹底した広報および環境問題に対する啓発活動が不可欠である。

H.11 年度末にも試行的に情報誌の特別号として一般住民にわかりやすい本事業の紹介版を流域14市町村に各戸配布するが、この方法を継続し徹底した広報活動を実施し流域住民の参画を促す。

〔森林保全課長〕

- ・森林の機能に応じた森林施策の重点投資を実施するためには、森林所有者及び地域住民等のコンセンサスを得る必要がある。また、新森林デカップリングを実施することにより、新たな森林づくり（多様な森林整備）を強力に推進してゆく必要がある。

〔松阪地方県民局企画調整部長〕〔南勢志摩県民局企画調整部長〕

- ・宮川流域ルネッサンス協議会に参画する住民、企業の組織化が必要である。
- ・フィールドミュージアムを流域全域に拡大することにより、流域14市町村が一体となれる取り組みを促進する。

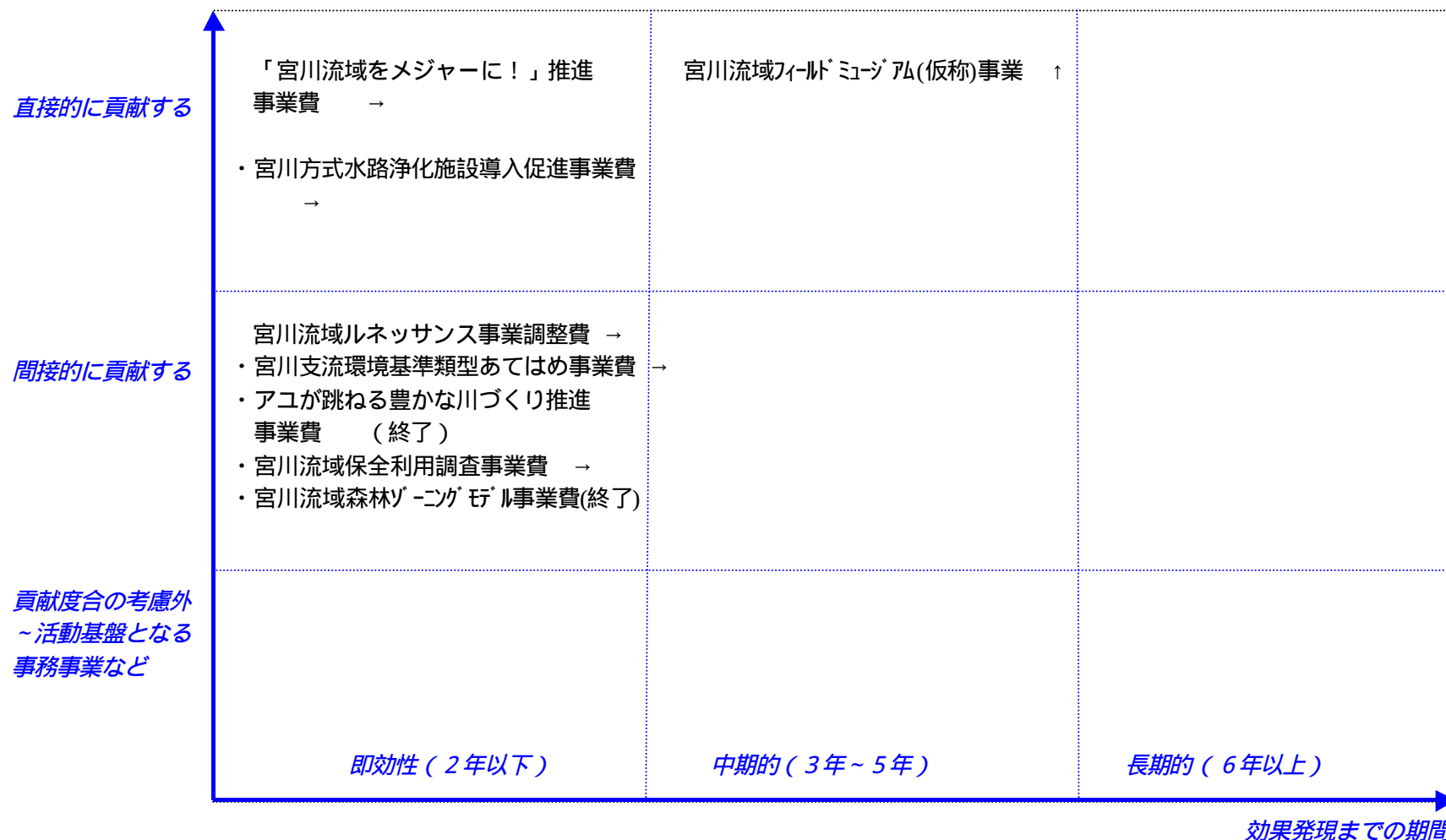
6 成果指標値及びコスト等の推移

	成果指標値		総合計画 目標数値	予算額等(千円)	必要概算 コスト(千円)
	目 標	実 績		所要時間(時間)	
前々年度 (H10年度)	1	$\frac{3}{2+4+11} = \frac{1}{6}$	1	128,221 11,580	176,625
前年度 (H11年度)	1	$\frac{3}{4+11+10} = \frac{1}{8}$	1	108,045 16,395	174,884
本年度 (H12年度)	1	$\frac{3}{11+10+6} = \frac{1}{9}$	1	66,815 13,657	123,492
本年度補正後 (H12年度)	1	$\frac{3}{11+10+6} = \frac{1}{9}$	1	+ (or ▲) 0 + (or ▲) 0	+ (or ▲) 0
翌年度 (H13年度)	1	——	1	192,325 15,700	258,108
計画目標年次 (H22年度)	1	——	1	——	——

7 翌年度(H 1 2 年度) の基本事務事業における事務事業戦略プランシート(PPM : Project Portfolio Matrix)

< 必要概算コスト： 5 億円以上 ~ 1 億円 ~ 5 千万 ~ 1 千万 ・ 1 千万未満 * 休止・廃止 >

基本事務事業の成果向上への貢献度合



各事務事業名の右に付した矢印は、それぞれの事務事業に対する力の入れ具合である「注力」の変化の方向を表している。

8 基本事務事業を構成する事務事業の詳細

新規事務事業には、事務事業名に(新)を付す

事務事業名 (担課課)	意図の指標名	事務事業の概要	13年度 予算額 (千円)	予算額 前年度比 (±千円)	13年度 所要時間 (時間)	所要時間 前年度比 (±時間)
宮川流域ルネッサンス 事業調整費 (資源課)	宮川流域再生計画 進捗度	事業の総合調整 地域懇談会、ルネッサンス講座の開催 流量回復方策影響調査などの調査研究	10,591	1,960	3,800	1,000
「宮川流域をメジャー に！」推進事業費 (資源課)	基金・財団の自立 貢献度 宮川流域の清流支 援者(支援度)	普及啓発活動 自然体験学習会、ホームページの運営 NPO委託調査 宮川流域ルネッサンス協議会との連携 情報誌の発行	18,713	614	6,400	1,030
(新)宮川流域フィールド・ミ ュージウム(仮称)推進事業費 (資源課)	フィールドミュー ジウムによる地域 振興比率	「人と自然の共生」のシンボルプロジェクトを全流域 に拡大し、身近で魅力的なフィールドをフィールドミ ュージウムに組み込んでいく。	136,663		3,000	3,000
宮川方式水路浄化施設 導入促進 (資源課)	宮川方式水路浄化 施設の整備箇所数	実験結果を踏まえ、より簡素な効果的な浄化システム の検討	6,272	3,193	500	250
宮川支流環境基準類型 あてはめ事業費 (大気水質課)	環境基準類型あて はめ率	横輪川の水質実態把握	7,086	0	1,000	0
宮川流域保全利用調査 事業費 (河川課)	清流宮川の再生	土砂管理方法設定のためのデータ解析	13,000	5,000	1,000	0